



私には、残したい世界がある。
人々が、
暮らしている世界だ。



時には、ぶつかり合い
時には、笑いあい

肩寄せ合って、生きていく世界だ。

今は、AC。
アフター・コロナの世界。



肩寄せ合って、
というと三密に触れるのかもしれない。
肩寄せ合って・・・。



誰かと語り合えること。
誰かと語ることができること。

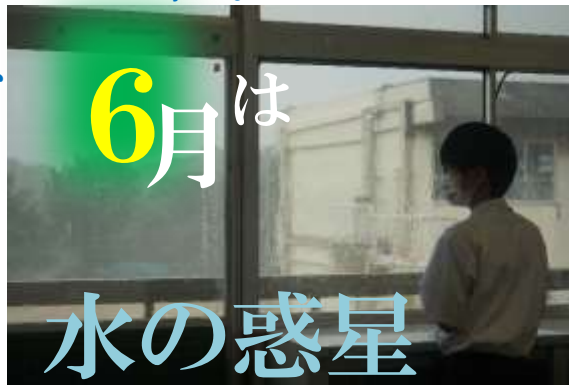


それは至上の幸せ。

心の形が、
外へあふれ出したものが、
言葉。

それ故に、
言葉は力を持つ。

勇気づけることも
労ることも



人は、
忘却の生き物。
と言われる。



確かに、
昨日の朝ごはんの内容さえ忘れてしまう時がある。

実施 令和2年
6月2日 火曜日～

でも、忘れてはいけないものもある。

下関市立 文洋中学校

命だ。
存在と言い換えてもいい。

すべての命と、共に。

それは、生きとし生けるものすべて。

ある日、突然に、今までの世界が、奇跡だったと理解した。

隣の存在が、
どれほど大切か。



山野を駆け巡るイタチも。

①





空を飛ぶ小鳥も。

横断歩道を渡る小学生も。



ベンチで佇むお年寄りも。

なにひとつ欠けても、寂しいのだ。
私たちは、寂しさを知った。

だから、WITH CORONA
と表現するのだろう。



そして、いま、
私たちは、
問われている。

否定ではなく、共に。



明日の未来を創るものは



それは、

心だ。

隣の人を、思いやる心だ。



何なのかと。



どれだけ想像することができるか、
問われているのだ。
マスクは、その始まりに過ぎない。

想像の、
創造の果てに、

私たちが作りたい、
私たちが続けたい世界が、
来るのだ。



私には、
残したい世界がある。



『世界』を

『風景』と読み替えてもいい。

それは、
一つの歌が奏でる風景。



♪ コバルトに燃える海



♪ いつまでも一人 見つめるの



♪ 故郷 (ふるさと) を聞かれたら
♪ まよわず地球と答えるの
♪ “争い” という文字が



♪ 辞書から消え去る
その日まで



私は、この歌をはるか以前に聞いていた。



その時、あの文字が、
本当に辞書から
消え去ることを、
思い描いていた。



あれから、20年、
いや30年になるのかもしれない。

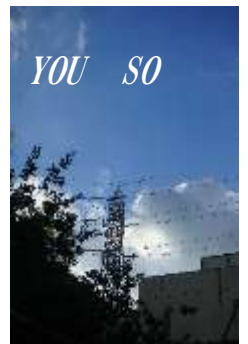
あの文字は、辞書から消え去ったのだろうか。



いつか、きっと.....



♪ OH, MR ブルー I LOVE YOU SO



♪ 私に力を

